夕張情報

早期再開へ中央行動

最大限の努力する——通産
4月中に結論出す——協会

閉山の日の労働者

昨年秋の北炭夕張新鉱の閉山・全員解雇以来、新会社設立による新鉱再開発の早期実現を求めている、夕張新鉱労組の三浦委員長ら代表十一人と、炭労執行部は二月二、三の両日、夕張の地元で必死に取り組んだ署名簿を持って、通産省と石炭協会を訪れ、新会社設立の推進を強く要請しました。

二つの要請先のうち、通産省では弓削田石炭部長、米山石炭計画課長、安藤炭業課長が応対しましたが、この席上、三浦委員長らは「解雇された鉱員のうち九百六十四人が新会社設立を望みに、ヤマに残っている。みんな雇用保険で細々と暮らしているが、その保険も四月で切れて額の低い黒手帳(炭鉱離職者手帳)に替ってしまう。なんとか四月までに再開のメドを示してもらいたい」と強く求めました。

これに対して通産省側は「いま石炭協会の検討委員会で技術関係を優先させて新社会問題を検討している。通産大臣はかわったが、山中新大臣も前大臣の方針を明確に引き継いで実現に最大限の努力をすると発言している。保安の確保と安定経営が検討のポイントになる」と現状を説明しました。

一方、石炭協会では佐伯副会長と橋口事務局長が出席し、労組の申し入れに対して、「いま一生懸命検討作業をすすめており、四月中に結論を出す方針にかわりはない」と述べました。

また、新鉱労組は夕張市民を対象に行なった新会社早期設立、新鉱再開発を要求する署名一万六千人分を通産省と石炭協会に半数ずつ手渡し、同問題に対する夕張市民の熱意を伝えました。

新鉱労組では、このあと十日前後にも独自の要請活動を予定しているほか、炭労も夕張新鉱再開発を当面の活動の柱にすえ、

① 二月下旬には支部代表と新鉱代表による中央行動を行う。

② 全支部で再開発要請署名活動を実施する。

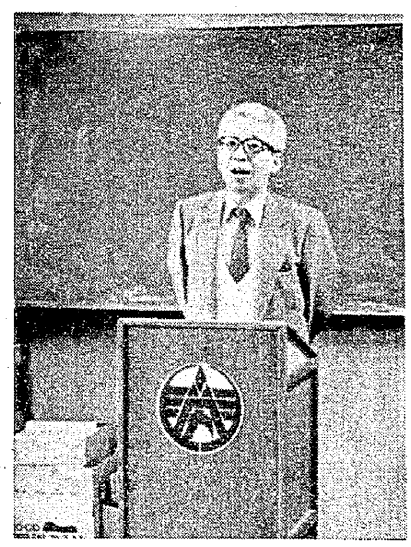
③ 二月から三月にかけて市町村議会に働きかけて、再開発要請の議会決議を求める。

④ 道地方本部は道・札幌通産局交渉と札幌での署名活動を行う。

などの方針を決めており、新会社設立問題は検討委が結論を出す四月に向けて活発な運動を展開していくことになります。

個人消費増大のための大幅賃上げを

—春闘学習会開く—


ストップ・ザ・中曽根のために
奥田知事実現を訴える衣笠教授

二月二日午後から、委員、執行部の学習会が行なわれました。講師は、衣笠哲生九大教授。テーマは『春闘情勢と統一地方選の意義について』でした。

「今日の不況は消費不況といわれている。勤労市民の所得に対する減税が六年間も行なわれず、実質増税になっていること。これに加え、春闘が一九七五年来八連敗となり、個人消費が停滞してきている。

一方、大企業の生産性は三・八パーセントと、賃上げ率を上まわっていることが指摘され、大幅賃上げにより、個人消費を増大させることによって不況を打開することができる。

しかしながら、自民党政府と独占資本は、国家財政の赤字を理由に人勧の凍結、福祉の切り捨てを強行してきている。

国家財政の赤字は、毎年発行される『赤字国債』にあり、レーガン政権の要請にこたえる軍事費の大幅な削減、大企業本位の支出や経済協力費の削減を行なうことが緊急の課題となっている。

八三年政治決戦の闘いと春闘における労働者の闘いは、こうした不況打開と政府、独占資本の攻撃を打ち破る闘いであり、一大決起が求められている。

だが、春闘の状況をみても要求額のあり方にしても、低調、低額におさえこむ動きも強まってきており、要求は生活実態をふまえ、勤労市民とも闘える共通の要求をかかげ、運動を急速に盛り上げていくことが重要である」などの点が数字をあげて解明されました。

また、八三政治決戦の意義について中曽根内閣のもとでの反動的な政治と地方自治の危機、そして福岡県知事選挙の重要性を具体的にのべられたあと質疑応答が行なわれました。

「三井鉱山の寄付」を証言

市民会館の敷地訴訟で

大牟田市民会館敷地の所有権をめぐる住民訴訟の口頭弁論が二月三日、福岡地裁で開かれ、山田亀一元市長の証人尋問が行なわれました。

この訴訟は、戦後まもなく三井鉱山が市に寄付した土地が登記されていなかったため、三井側が返還を求め、市もこれに応じて一九七五年、区画整理の換地処分で三井鉱山の所有になりました。これに対し、堤泰也さんら住民百九十一人が「三井は市に土地を寄付しており、所有権は市にある」と、一九八一年に提訴しました。

この日の口頭弁論で山田証人(八十一歳)=当時助役=は「そのままではアメリカ軍にとられるという事情があったので、大牟田市に寄付したという田中市長(当時・故人)の発言は十分考えられることだ」と証言しました。

囚人労働遺跡を訪ねる ⑩

三池炭山創業碑

小崎文人

三池炭山創業碑は、国鉄大牟田駅のすぐ目の前、徒歩で五分くらいの距離にある笹林公園にあります。五段ほど積み上げられた台石の上に立つ、巨大な自然石の碑で、同公園のいちばん奥まったところ、木々の繁みの間から顔をのぞかせております。その真正面に「三池炭山創業碑」の太文字が刻まれている、堂々たる碑です。文字は、ときの大蔵大臣だった松方正義が書いています。

碑は大正五年七月、三池炭鉱社の初代事務長だった団琢磨をはじめとする発起人によってたてられ、はからずも、その由来記を通して、彼ら自身が、三井財閥の形成にと、囚人労働が果たした役割の大きさを語りかけています。

「三池炭山は……明治六年工部省の管轄に属し、鉱山寮支庁を下里村に置き、同年大浦坑を開く。九年石炭販売を三井物産会社に委託し、口ノ津港を経て海外輸出をはじむ。十五年七浦竪坑成る。是より先き坑内には福岡、熊本、佐賀及び長崎県の囚徒を使役せしが、十六年三池集治監を置かるるに及び専らその囚徒を用ふ。十九年大蔵省の経営に属し、事業の面目茲に一新せり。二十年宮浦坑を開く。二十二年三井家の有に帰す」

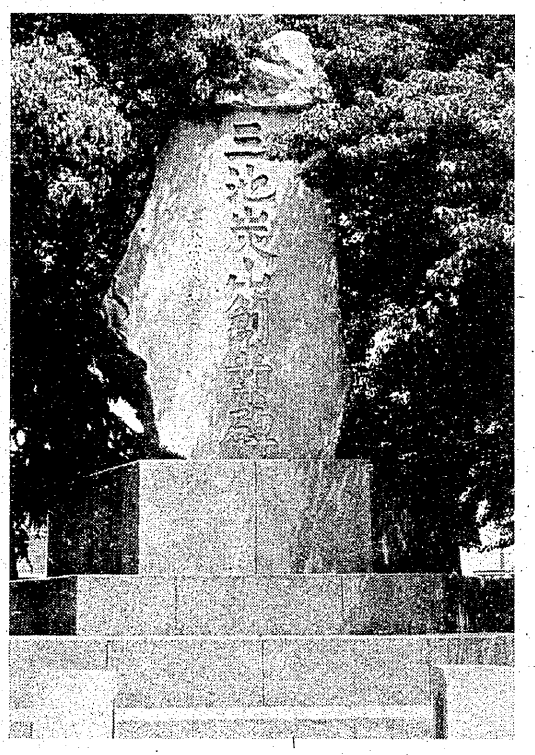
まさしく、三池炭鉱の囚人労働は三井財閥の発展、大牟田の歴史の土台を築くための人柱だったといっても決して過言ではないのです。

三池炭鉱の囚人労働は、明治六年に三潴県の投入によってその幕を開き、以後福岡、熊本、長崎、佐賀、それから集治監の順に続けられました。

その間駆り立てられた坑は、竜湖瀬、長谷、梅谷、大浦、勝立、宮原の各坑で、坑内採炭などがおもな苦役でした。

その囚人労働は、昭和六年の三月悲惨な幕を閉じましたが、三池集治監の囚人が最後の苦役の場として駆り立てられていった宮原坑を、ほとんどの人が宮原坑と呼ばずに「シラコ」(修羅坑)と呼んでいる事実が、囚人労働の実態をよく物語るでしょう。

明治のはじめ、何と人口千人前後で、一面沼と葦で覆われていた大牟田。今と比べるとき、囚人労働のことを思わずにはいられません。


大牟田駅近くの笹林公園内に建つ、三池炭山創業碑です。碑石の側面に刻まれたその由来記が、皮肉にも囚人労働のもつ意義の重さを語ってくれています。

釣りキチ余談

泳がされたの巻

連載第二十回

石田鈍竿

昭和三十八年三月、運転免許証を取得した。これも釣りを楽しむためには欠かせないからである。

早速、ホンダドリーム二五〇CCを買った。といっても新車は手が届かず、手頃な中古車である。

その年の七月、得意満面の俺は、こわがるS君をむりやりうしろに乗せ、小気味よい排気音をたてながら三池海水浴場へ向った。

闇夜の潮で期待も大きかったのだが、灯台下でのその夜の釣りは思わしくなく、二人ともむしゃくしゃしながら早々に引き上げる足どりは重かった。

『とにかくこのままじゃ帰られんばん。三番(諏訪川河口から新港主扇までの防波堤にある三つの梯子段で、三番は製塩工場裏にある)に行ってみろうか』というS君に、

『よっしゃ、ぎいこぎいこの自転車と違うけんの、任せとかんの、一走りたん』

胸をたたいて海水浴場際の道路上に置いていた愛車にまたがり

『発車オーライ』

発車したと思ったら、ふらっとしてハンドルを取られて二人とん〝ドデーン〟と引っくり返ってしまった。『いてて……』

打ちどころが悪かったのか、しばらく起きあがれなかったが、ようやく腰をさすりながら倒れた愛車をやっと起こし点検してみると、前後輪のタイヤがぺたんこになっているではないか。何か鋭いもので刺した傷あとがある。『畜生おー』

いたずらにもほどがある、とかんかんになったが、どおしようもない。

『しょんなか、帰るたん乗らんの』

走り出したのはいいが、ハンドルがぐらぐらして走れるものではない。すぐに降りて、エンジンかけながらごとごと、がたがた、汗びっしょりになって海水浴場から新港社宅入口の修理屋まで、何とかたどり着いた。

夜も遅く、人が起きているはずもない時刻である。戸をたたいてむりやり起こす。寝巻き姿でやっと起きてきた。バイクの前にかがみ込み診察? していたが、

『こらでけん、チューブがばらばらになつとるばい、二本とも取り替えんなんですよ、タイヤも替えたがよか』

寝ぼけた顔で、不気嫌にいう親爺のつらに、またかーっときた。

『えーくそっ』と、そばにあった小石を、川淵のコンクリート壁に力いっぱい投げつけた。その石が〝ガキーン〟とはね返って、俺の向う脛に見事に命中したのである。『むむむ……』

俺は、生汗を流してそのまま座り込んでしまった。S君が何かいっているようだが、それを聞くどころではなく、痛さをこらえるのが精一杯である。

『どげんしたつかん』とのぞき込む。

『今夜は、魚んごつ泳がされたのう』痛いのとはがゆさで、ポロリと涙が落ちた。